

令和6年度第2回文教厚生常任委員会行政視察研修報告書

- 1 目 的 所管事務調査先進地視察(行政視察)
- 2 実施日 令和6年11月6日(水)～8日(金)
- 3 視察地 福岡県古賀市
福岡県志免町
大分県大分市
- 4 視察内容 福岡県古賀市 『全小・中学校の水泳授業の民間委託について』
福岡県志免町 『シーメイト(総合福祉施設)の活用と環境に優しい省エネ設備について』
大分県大分市 『大在東小学校(令和6年4月開校)の特色について』
- 5 参加者 委員長 鈴木 恒充
副委員長 加藤 誠一
委員 笹沼 昭司
委員 福田 克之
委員 石岡 祐二
執行部職員 2名
事務局職員 1名

福岡県古賀市 『全小・中学校の水泳授業の民間委託について』

視察日 令和6年11月6日(水)

1 古賀市の概要

福岡県の北西部、福岡市と北九州市間に位置している。明治期以降、食品、機械などの製造業が進出。現在は約100社の製造業者が操業し、特に食品製造業の比重が高く、その出荷額は県内でも有数を誇る。市内にはJRの駅を3つ有し、博多駅までは約20分の距離で、福岡市のベッドタウンとしても発展している。

人口 59,234人 面積 42.07km²

議員定数 19人

2 視察内容

古賀市では、令和5年7月から全小・中学校の水泳授業を民間事業者に委託し、インストラクターから専門的な指導を屋内プールで季節や天候に左右されることなく計画的に受けられる環境を整え、児童・生徒の泳力向上につなげている。

また、各学校のプールの改修や維持管理費・更新に係る費用の大幅な削減や、教職員がこれまでに担っていた維持管理に関する負担軽減にもつなげている。

研修では、当市の「プール最適化基本方針」の参考として、これらの取組について説明を受けた後、質疑応答及び意見交換を行った。その後、健康文化施設「クロスパル古賀」の見学を行った。

小学校 8校 児童数3,597人
中学校 3校 生徒数1,729人

3 所感

さくら市は、令和6年11月1日現在、小学校6校で児童数、2,457名、中学校2校で生徒数、1,212名であり、屋外プールの割合が多い。屋外プールは天候に左右されやすく、維持管理費が多くかかるので、長期的に見れば屋内プールが良いと感じた。

水泳授業を民間事業者に委託することで、インストラクターによる専門的な指導が計画的に受けられ、児童・生徒の泳力向上にも繋がり、教職員の負担も軽減できる。このため、是非さくら市の「プール最適化基本方針」の参考にすべきであると感じた。



クロスパル古賀（プール）
民間委託になった水泳授業の様子



クロスパル古賀（体育館）

福岡県志免町 『シーメイト（総合福祉施設）の活用と環境に優しい省エネ設備について』

視察日 令和6年11月7日（木）

1 志免町の概要

志免町は、福岡県の西部に位置し、総面積8.69平方キロメートルの県下では3番目に小さな町だが、福岡市のベッドタウンとして住宅開発が進み、人口は4万6千を超え、人口密度は全国の町村では第1位になっている。

人口 46,560人 面積 8.69km²
議員定数 14人

2 視察内容

志免町総合福祉施設の愛称「シーメイト」は、平成16年に約35億3千万円で建設されたさまざまな機能を持つ健康と福祉を考慮した総合福祉施設である。

施設の中には、子育て支援センターや権利相談等の子育て支援事業所、高齢者のデイサービス、訪問介護・居宅介護支援等の高齢者支援事業所、支援が必要な子どもの養育や放課後デイサービス等の養育支援事業所、シルバー人材センター、社会福祉協議会、浴場（シーメイトの湯）があり、こどもから高齢者、障がい者が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できるように、健康と福祉の情報発信基地となっている。

また、施設には、環境にやさしい省エネ設備として、太陽光発電、太陽熱利用ソーラー、外気を取り入れ熱交換による空調を行う省エネタイプ集中管理システム、太陽光と風力を利用して発電し明かりをとすハイブリット街灯を設置している。さらに敷地内に振った雨水を貯水槽に貯め、トイレの洗浄水や、散水、火災時の防火用水として雨水の再利用にも取り組んでいる。

研修では、複合施設の利活用・運用状況について説明を受けた後、施設内を見学し、質疑応答及び意見交換を行った。

3 所感

施設は、太陽光発電、ハイブリット街灯、雨水の貯水槽など、環境にやさしい省エネ設備が数多く取り入れられていた。

環境に優しい省エネ設備の導入は、さくら市でも見習うところがあると感じた。



シーメイト（ロビー）



シーメイト（子育て支援センター）

大分県大分市 『^{おおざいひがし}大在東小学校（令和6年4月開校）の特色について』

視察日 令和6年11月8日（金）

1 大分市の概要

大分市は九州の東端部、瀬戸内海の西端に位置し、大分県の県庁所在地であるとともに、中核市に指定されている。高度成長期以降は臨海部に鉄鋼業石油化学業などの重化学工業が進出・急成長してきた。近年では情報通信機器や精密機械の企業が進出している。製造品出荷額は九州1位。

人口 476,556人 面積 502.39km²
議員定数 44人

2 視察内容

大分県大在地区は、2045年におよそ18%の人口増加が見込まれることから、19年ぶりに小学校を新設し、令和6年4月に大在東小学校が開校した。

開校した学校施設の特色として、

- 1) 避難所となる体育館や保健室に、停電時72時間程度の電力供給が可能な非常用発電機を整備したこと
- 2) 校舎2階トイレの一部に「ジェンダーフリートイレ」を5基設置したこと
- 3) 併設されている屋内運動場に空調設備を整備したこと がある。

研修では、これらの取組について説明を受けた後、質疑応答及び意見交換を行った。

小学校 56校 児童数26,370人
中学校 34校 生徒数13,747人

3 所感

大分市は、自然環境に恵まれ、また企業誘致・土地区画事業などにより、将来人口の増加が見込まれることから、将来を見越した教育環境の整備に取り組んでいた。

大在東小学校は、災害時に3日間電力供給が可能な非常用発電機を備えるなど、学校をさまざまな用途に使えるよう整備した小学校であった。

これからの小学校新設や増築時の参考にすべきと感じた。



大在東小学校



来客地域開放玄関前